

関連文化財群

『豊川市文化財保存活用地域計画』では、市域に点在する様々な文化財を地域の歴史文化の特性と関連付け、一定のまとまりとして捉えた6つの関連文化財群を設定しています。一宮中学校区域の関連文化財群は下記のとおりです。

関連文化財群① 本宮山や豊川を始めとした自然環境と風土

ストーリー	市域最高峰の本宮山は、古くから信仰の対象とされ、山頂には三河国一宮の砥鹿神社奥宮があります。山麓に連なる扇状地や段丘面では、旧石器時代から人々の生活が営まれてきました。東から南へ貫流する豊川は、肥沃な土壌や豊かな生物相の形成という恩恵をもたらす一方で、地域住民にとっては水害が生活を脅かす存在でもありました。		
関連文化財群の主な構成要素	＜県＞砥鹿神社奥宮(本宮山)の社叢 ＜県＞砥鹿神社のケヤキ ＜市＞粥占祭・田遊祭・火舞祭	＜市＞牛の滝とその付近の自然 - 豊川洪水破堤跡（金沢橋北） - 松原用水旧取水口人造石遺跡	大和の大いちょう ほか

関連文化財群② 数多く築造された多彩な古墳

ストーリー	豊川流域には古墳時代前期から古墳が築かれ、とりわけ右岸の山麓から扇状地上には後期の群集墳が数多く造られています。また、左岸で新城市との境界尾根上にある「旗頭山尾根古墳群」は、渡来人との関わりを示すとされる積石塚古墳から構成される古墳群です。これら古墳の多くは現在までに滅失していますが、発掘調査等による出土品が遺されています。		
関連文化財群の主な構成要素	＜県＞炭焼（平）古墳群 ＜県＞旗頭山尾根古墳群	＜市＞念仏塚1号墳 ＜県＞鳥鈕蓋付台付壺	＜県＞海獣葡萄鏡（付鉄刀） - 念仏塚5号墳出土形象埴輪

関連文化財群④ 近世東海道を中心とした街道交通

ストーリー	東海道の脇往還である本坂通（姫街道）から市田で分岐した後に篠田から東上へ抜け、新城・海老さらに信州へと通じる街道は、東海道を小坂井村で分かれて、牛久保・豊川を経て北上する「伊那街道」と一宮で合流します。この街道は、鳳来寺や善光寺への参詣だけでなく、信濃山間部と沿岸部を結ぶ道として、塩などの重要な物資の輸送路でもありました。		
関連文化財群の主な構成要素	- 東上分一番所跡 ＜市＞砥鹿神社西参道石鳥居	＜市＞大木の伝馬免許状 - 砥鹿神社道標	

関連文化財群⑥ 豊川海軍工廠と豊川市

ストーリー	豊川海軍工廠に供給する水は、旧八名郡大和村（現豊津町）地内の豊川から取り込み、一宮村大プロの浄水場を経て工廠の北方にある千両の配水池まで揚げられ、自然流下方式で廠内や関連施設へと給水されていました。戦後、これらは豊川市に引き継がれ、上水道施設の一部となっています。砥鹿神社西参道鳥居は、かつて市田にありましたが、豊川海軍工廠の爆撃を受け、現在地に移築されています。		
関連文化財群の主な構成要素	やまと大和水源	＜市＞砥鹿神社西参道石鳥居	

様々な取組主体

旗頭山尾根古墳群保存会

古墳群の所在する町内会の有志によって草刈りなど保存のための活動をしています

ボランティア本宮山の会

本宮山を愛する有志によって登山道の管理を行っています。

大和の大いちょうお助け隊

大和の大いちょうの保全や観光協会と協力して「大和の大いちょうまつり」の運営などを行っています。

金沢歌舞伎保存会と一宮南部小学校歌舞伎クラブ

金沢歌舞伎継承のため、一宮南部小学校歌舞伎クラブを指導し、毎年10月末に行われる赤坂の舞台伝統芸能公演（主催：豊川市教育委員会）で、歌舞伎を披露しています。

⑥大和の大いちょう



一宮南部小歌舞伎クラブ

⑤＜市＞田遊祭



とりちゅうふたつまだいつまつぼ
＜県＞鳥鈕蓋付台付壺（炭焼平14号墳出土）

豊川市文化財保存活用地域計画

【二宮中学校区】

令和7年 豊川市

自然的・地理的環境

一宮中学校区は、豊川市の北東部に位置し、本宮山を北端として北西側で岡崎市と、東側で新城市と接しています。南側は一部豊川の左岸を含み、豊橋市との境界となっています。本宮山の南麓には扇状地がよく発達し、その下には豊川による河岸段丘や沖積低地も広がり、地形の変化に富む区域といえます。

市街地は、伊那街道に沿う国道151号を主軸として形成されており、これに並行して走るＪＲ飯田線には三河一宮駅はじめ4つの駅があります。

歴史的環境

豊川右岸の扇状地や段丘上には旧石器時代からの生活の痕跡が認められ、沖積低地にも弥生時代以降の遺跡が知られています。しかし、本地域を最も象徴するのは、古墳時代後期に集中的に造営された多数の群集墳です。

また、「一宮」の由来でもある砥鹿神社は、平安時代の嘉祥3(850)年にはその名がみえ、延喜式にも名を連ねる三河国の筆頭格の神社として現在に至っています。

豊川は江戸時代以前から下流域の水利として活用され、取水地点は橋尾・日下部・松原と変遷しています。他方、物資を輸送する舟運も川の重要な機能であり、幕府は東上に番所を置いて徴税を行いました。

ＪＲ飯田線の前身である豊川鉄道は、明治31(1898)年には新城までの営業が始まり、長山駅前に昭和初期に開設された長山遊園地は、短期間ながら大いに賑わいました。

歴史文化の特性

信仰の対象でもある本宮山と、恩恵と災いの両方をもたらす豊川という自然環境に影響を受けながら、人々の暮らしが営まれてきた地域といえます。

文化財の概要

校区の指定文化財等は、43件です。寺院が所有する彫刻や絵画、神社の巨樹、砥鹿神社の無形民俗、古墳やその出土品などです。一宮町誌や既存の文化財関連調査、市民を対象に実施したアンケート調査から把握した未指定文化財（歴史文化資源）は、36件あります。

⑤砥鹿神社（里宮）



④<市>一宮砦跡



③<市>念仏塚1号墳



②<市>服織神社のツガ



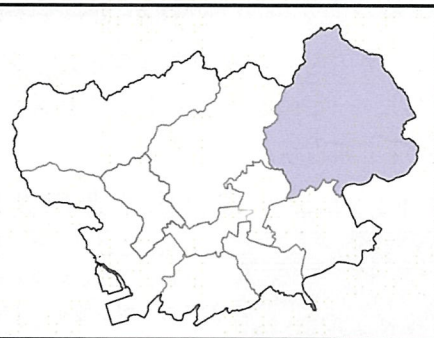
①<県>砥鹿神社奥宮（本宮山）の社叢



⑮<市>牛の滝とその付近の自然



⑭<県>炭焼（平）古墳群（4号墳）



⑦金沢橋



金沢橋から臨む本宮山

⑧松原樋門



⑨<市>江島神社のクスノキ



⑩江島橋の石碑



⑪<県>旗頭山尾根古墳群



⑫東上分一番所跡の石碑



種別		国指定等	県指定	市指定	合計	未指定文化財等
有形文化財	建造物	4	0	2	6	6
	絵画	0	0	3	3	0
	彫刻	0	0	2	2	0
	工芸品	0	0	5	5	1
	書跡・典籍	0	0	3	3	0
	古文書	0	0	0	0	3
	考古資料	0	3	0	3	1
	歴史資料	0	0	2	2	1
	小計	4	3	17	24	12
無形文化財		0	0	0	0	0
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	0	0	0	1
	無形の民俗文化財	0	0	6	6	1
	小計	0	0	6	6	2
記念物	遺跡	0	2	3	5	8
	名勝地	0	0	1	1	0
	動物・植物・地質鉱物	0	3	4	7	10
	小計	0	5	8	13	18
文化的景観		—	—	—	—	1
伝統的建造物群		—	—	—	—	0
その他 （市独自の設定）	史話と伝承	—	—	—	—	2
	工場遺産	—	—	—	—	1
合計		4	8	31	43	36

令和6年4月22日現在